



京都 YWCA

9 2025

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

京都 YWCA 自立援助ホーム「カルーナ」 設立 10 周年記念イベントを開催しました

例年の初夏よりも暑い日々が続く中、7月5日室町教会にて、カルーナ設立10周年記念イベントを開催しました。2015年の設立からカルーナを支えてくださった方々への感謝を伝えるとともに、普段なかなか伝える機会のなかった利用者の現状について知ってもらうことができました。講師としてお迎えしたのは、土門蘭さんです。土門さんの著書『死ぬまで生きる日記』を読んだスタッフが入居者・退所者そしてたくさんの人に話を聞いてもらいたいとの熱い思いから、土門さんにお話していただくこととなりました。

『死ぬまで生きる日記』の著者土門蘭さんのお話からの気付き

土門さんの著書には、カルーナの入居者・退所者が抱える思いに通ずるものがありました。そして、私は今の時代の誰もが抱える思いのようにも感じました。土門さんは自身の抱える思いをカウンセラーの方と整理したり、理解してきた経験を著書につづられています。思いの整理や理解は自身と向き合うことです。そして、それはとても難しく、できれば避けて通りたい、逃げ出したいくなるものです。そのようなとき、「大丈夫」と言ってもらえる存在、一緒に考えてくれる人がいるということは何よりも支えになります。

カルーナはこの10年で利用者の層が変わってきました。高校生年齢の利用が増えてきたことで、利用者が抱えるものも少しずつ変化しています。しかし、根底の「自分を支えてくれる存在」や「居場所」を求めていることは変わりません。そして、それはカルーナが運営する子ども・若者の居場所「Y

ここ Kitchen」を利用する若者も同じです。参加される理由はさまざまですが、「Yここ Kitchen」では誰もが安心して、安全に利用できることを大切にしています。参加される方々と一緒に「安心できる居場所」を作りたいと思っています。

支援者・関係者への感謝と交流の機会に

土門さんのお話にあったように、「大丈夫、私には私がいる」「自分の居場所は自分の中にある」という思いを持てたとき、どのような世界が見えるのでしょうか。世代に限らず誰もが抱える、生きるしんどさを少しでも整理するきっかけになってほしいと願っています。

講演後の茶話会では土門さんと直接お話をさせていただく機会を設けました。また、カルーナを支えてくださっている方々への感謝を直接伝えることができました。参加してくださった方々とゆっくりお話できる良い時間となりました。

交流会では退所者・入居者とカルーナに関わってくださっている方々が食事をしながらお話をすることができました。ゲームを通じての交流や、「Yここ Kitchen」で行っている体ほぐしプログラムを一緒に行うことで、カルーナ利用者の現状を知っていただけたと思います。

現在もさまざまな機関からカルーナの利用相談があります。現状を変えたい方、安心した生活を送りたい方、理由はさまざまですが、誰もが安全で安心できる居場所を求めています。京都YWCAの理念に沿い、これからもカルーナは一人ひとりが大切にされる「共に生きる世界」をめざしていきます。

(山本 佳奈)



『死ぬまで生きる日記』著者土門蘭さん講演会の様子



入居者・退所者・関係者が楽しいひとときを過ごしました

戦後 80 年に寄せて

神戸 YMCA 主催「異なる境遇で生きるわたしたちがともに過ごすキャンプ『OneCamp』」に参加しました

瀬戸内海に浮かぶ小さな無人島「余島」。余島では「戦後における民主主義教育の実現」という使命を果たすため、1950 年から神戸 YMCA がキャンプ場を運営し続けてきました。しかし残念ながら、2026 年 3 月で神戸 YMCA は余島から撤退することが決定しています。

京都 YWCA は、余島で 2018 年から実施されている「OneCamp」のパートナー団体として、毎年子ども・若者を余島に送り出しています。今年は 7 名の若者と共に OneCamp に参加をしました。

OneCamp は、多様な人が 4 泊 5 日共に過ごすことで、多様性を認め受容する社会を実現することを目指しています。足が不自由で 1 人では歩くことができない人、外国にルーツを持つ人、生きることがしんどいと感じている人、就労支援を受けている人など、OneCamp にはさまざまな人が集います。



毎日海水浴を楽しみました

戦争を止められなかった先人たちの思いが託された余島キャンプ

キャンプ初日の夜、余島センター所長から参加者へ「人のために行動できる人間になってほしい」という話があ

りました。皆が人のために行動できるようになれば、人間の尊厳が守られ、戦争という悲劇が繰り返されることはない。余島をキャンプ場にしたい先人たちは、戦争を止められず加担してしまった責任を感じ、キャンプを通して青少年を育てようと、余島をキャンプ場にしました。

京都 YWCA から参加した若者は、そのメッセージをしっかりと感じとっていました。

「街中だったら車椅子の人がいても助けたりできないけど、余島だと自然にみんなが手をさしのべていて、『歩けそうなら一緒に歩こう』って言っててすごいと思った。毎日が本当に楽しくて帰りたくない。」

「普段は自分のことが嫌い。でも余島にいる時は好きな自分になれる。」

「キャンプ中に失敗もしたけど、この失敗から学んで成長しないといけないと思った。」

「余島にはルールがない。ルールがないから、敵とか味方とかがない。」

余島は青少年を育成し社会を変革していくために必要な場所です。現在、今後も余島キャンプのレガシーを後世に継承するための協議会が立ち上がっています。詳細は余島野外活動センターホームページ（二次元コード）よりご覧ください。（古川 由布子）



余島野外活動センターホームページ

ドキュメンタリー映画「黒川の女たち」を観て戦時性暴力を「なかったことにはできない」と声を上げた当事者たちがいた

敗戦時の満州で岐阜県からの黒川開拓団の人々は、生きて帰国するために 18 歳以上の女性の性接待を見返りに、ソ連軍に助けを求めました。帰国後、守られるべきはずの被害者たちは烙印を押されて偏見や差別に晒され、沈黙を強いられてきました。1982 年に開拓団遺族会は、慰霊のための「乙女の碑」を建てましたが、事実の説明はありませんでした。

しかし、戦後 70 年余経って、これを「なかったことにしてはいけない」と当事者の女性たちが公の場で発言し始め、その行動が戦後世代の遺族会の人々を動かしました。2012 年に遺族会の人々は、タブーとなっていた事実について女性たちへの聞き取り調査を行いました。開拓団に起こった過去の出来事と、国策による満州への移住に至る歴史的背景を検証して、当事者たちの協力を

得て碑文にまとめました。碑文は、女性たちの名誉を回復し、同じ過ちを繰り返さないための未来への伝言として、2018 年に「乙女の碑」の横に設置されました。

これは負の歴史に向き合おうとする人々の努力を象徴する希望の事例ですが、残念ながら稀な事例かもしれません。戦後 80 年、戦争体験者がいなくなる最終段階にいる今、これまで語られなかった戦争に関わる事実を語ろうとする動きの一つとして、この映画は貴重な記録だと思います。（上村 兪巳子）



映画「黒川の女たち」より

京都 YWCA にほんご教室「洛楽」 30 年の歩み

京都 YWCA で 1982 年から活動してきた福祉委員会が国際交流を中心に据えるようになり、1989 年に国際交流グループが発足しました。その国際交流グループのメンバー 3 人が留学生との交流セミナーを開催した際に、京都に仕事や留学のために在住していた人たちのパートナーが日本語を学ぶ機会がなく毎日家で過ごしている実情を知り、その人たちのために 1995 年 11 月に YWCA の活動として日本語教室を立ち上げました。「京都 YWCA にほんご教室『洛楽』」の誕生です。

京都（洛）で楽しく（楽）過ごしてほしいという願いでにほんご教室「洛楽」と名付けました。その後、2007 年に国際交流グループと「洛楽」は国際委員会の傘下に入りました。また、2017 年には「洛楽」と多言語相談グループ APT が統合し、多文化共生委員会として活動するようになりました。このような変遷を経て 30 年が経ちました。

今まで関わった講師は約 50 名、受講生は毎年 50 名から 90 名程在籍しています。「洛楽」では、ただ日本語を

学んで日常生活や仕事で使えるようになるというだけでなく、一緒に学ぶ他国の人たちとの交流を通して、お互いの国について知り理解を深めることをめざしています。時には生活上のアドバイスをすることもあり、受講生が充実した京都での生活を送れるよう、どの講師も配慮し心掛けてきました。1 年に 1 回受講生と講師・職員の交流会を行っています。流暢な日本語を披露してくれたり、意外な特技を見せてくれたりする受講生もいます。今後も京都で生活する外国の人たちに喜んでもらえる「洛楽」でありたいと願います。

（池上 信子）



洛楽の授業風景



2024 年度
受講生・講師・職員交流会

6月11日 あじさい保育園 「花の日・こどもの日」報告

キリスト教の行事である花の日・こどもの日は、「子どもたちが花のようにすくすくと育つことを願って祈った日」とされています。園では初めて「花の日・こどもの日」のお祝いをしました。全園児参加の礼拝では「花の色や形、香りが違うように、ひとり一人、違っていい。花が育つには、太陽の光、豊かな土、そして空から降る雨が必要のように、私たちも多くの恵み、人や神さまからの愛があって成長し、生きていくことができる。知らないところで、そっと誰かが見守ってくださっている」そんなお話を室町教会の浅野献一牧師がしてくださいました。

その後、各クラスで近隣を訪問予定でしたが、あいにくの雨で、年長の子どもたちと保育者が訪問しました。お花とカードをお渡しし、日頃の感謝を伝えるとともに、引き続き子どもたちを見守っていただくことをお願いしました。みなさん、笑顔で迎えてくださいました。



近隣の方へお花を届けました

新入職員のご紹介 中瀬 萌（めぐみ）さん

はじめまして。今年の 6 月に入職いたしました、中瀬萌です。大学では社会福祉学を学び、卒業後は子ども・若者支援に携わる仕事をしておりました。こちらでは、今年度は多文化子どもプログラム、若者就労、Yここ Kitchen、カルーナなどの担当をさせていただきます。前職の経験を活かせるところは活かし、新たな気づきや学びを大切にしながら、実りある日々を過ごしていきたいです。



こちらに入職してまず驚いたのは、会員、職員のエネルギー感です。自身の関心があることに真摯に取り組み、活力に満ち溢れている姿を見て、心がときめきました。京都 YWCA が築き上げてきたものを大切に、そしてよりよいものへと育んでいけるよう、みなさまと力をあわせて精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。



「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」事業へのご支援のお願い

京都 YWCA はさまざまな事業を通じて多様な人々がふれあう「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」を進めています。これをさらに持続的・発展的に進めるために、ご支援をお願い申し上げます。

ご寄付は事務所窓口にて、あるいは郵便振替、オンラインをご利用いただけます。

郵便振替 01080 - 9 - 1566

加入者名 公益財団法人京都 YWCA

オンラインでのご寄付はこちらから

<https://congrant.com/project/kyotoywca/4775>

活動を指定したご寄付等の詳細は事務所に問い合わせてください。ホームページをご覧ください。

<http://kyoto.ywca.or.jp/support>



賛助員を募集しています！

賛助員となって京都 YWCA を持続的に支えていただく方を募集しています。以下のサイトからオンラインでもお支払いいただけます。

<https://congrant.com/project/kyotoywca/11953>

賛助費（年額）個人：5,000 円または 10,000 円
団体：10,000 円 / 一口



High Value
Building Management
System

私たちは「きれい」という
感動をお届けします。

【ビルメンテナンス関連業務・清掃
警備全般・設備点検・害虫防除・植栽業務】

株式会社光ビルサービス

〒525-0066

滋賀県草津市矢橋町593-1

☎：077-562-1233



今後のプログラム

◎プチマルシェ

■日 時：10月25日（土）10：30～14：30

■場 所：京都 YWCA 本館・サマリア館うららかふえ

■テーマ：「地球にやさしい人とのをつなぐ」

■内 容：リサイクル品・手作り品・作業所の自主製品・雑貨・お菓子・食品・野菜の販売など。

■申 込：不要

■主 催：京都 YWCA ファンドレイジング委員会

シェアカフェ（委託）募集

京都 YWCA のヴォーリス建築サマリア館にある居場所食堂「うららかふえ」で、京都 YWCA が委託して月曜日から土曜日の一日、ランチ提供を行ってくださる店長さんを募集しています。

お料理を作るのが好きな方、仲間と何かしたい方、将来お店を持ちたい方など、ご応募をお待ちしております。詳細は二次元コードからご覧くださいか、事務所に問い合わせください。



ご協力ありがとうございました

2025年6月1日から7月31日までの寄付者一覧（敬称略、順不同）

各指定寄付

* 法人支援

有田孝子

* 活動総務

匿名 1 名

* 親・子育て支援活動委員会

親子ライブラリー

* APT

筒井奈都子、ヘイナ啓子、畠中隆子、

神門佐千子、安藤いづみ、朴 実、

匿名 1 名

* 活動グループ

手話サークル

* 多文化共生委員会

有田孝子、織田雪江、匿名 1 名

* ふれあいの「居場所」事業部委員会

若者就職支援まかない募金

* 自立援助ホーム「カルーナ」

大和田暢子、上村奈巳子、横川幸治、

谷元義子、近藤純弘、伊東真喜子、

織田雪江、松岡由香子、山上義人、

文田則子、竹之下雅代、小杉總子、

竹岡哲朗、小林裕彦、山本智也、

水野篤夫、近野玲子、兼井恵子、

西村由里、畠中隆子、平野裕之、

打田治枝、近藤八津子、桑畑祐治、

山本知恵、一色光世、筒井奈都子、

森本純代、大山悠子、井上里佳、

日本聖公会京都教区婦人会、有田佳子、

匿名 1 名

* 子ども・若者の居場所 Yここ Kitchen

上村奈巳子、近藤純弘、山上義人、

小林裕彦、近野玲子、平野裕之、

日本 YWCA 運営委員会有志、

小笠原純恵、平安女学院中学高等学校、

大山悠子、齋藤大輔、有田佳子、

匿名 2 名

* 賛助費

北村保子、田中勝久、川端国世、

岡昭男、中村和雄、大城美代子、

白根睦久、匿名 1 名

7・8月／理事会報告

- 「2024 年度事業報告書」を発刊
- 「会員ハンドブック」を改訂
- 7/5：自立援助ホーム「カルーナ」の 10 周年記念プログラムと交流会を開催（本誌 P1 参照）

- 7/19：プロギング（ウォーキングしながらまち美化と交流をする活動）を京都 YWCA 周辺で実施
- 8/9：カフェフリーデン開催。テーマは「戦争と女性」
- 8/22：小学生の居場所プログラム「ガジュマルの樹」を実施

KYOTO YWCA No.588 2025 年 9 月号（9月1日発行）

発行人：山中あかね

発行所：公益財団法人京都 YWCA

〒602-8019

京都市上京区室町通水上ル近衛町44

電 話：(075)431-0351

F A X：(075)431-0352

e-mail：office@kyoto.ywca.or.jp

H P：http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替：01080-9-1566

口座名義：（公財）京都 YWCA

定 価：1 部 50 円

発 行：奇数月 1 日発行